

## 1 精華町議会（相楽郡精華町）

### 【調査事項】

精華町における多文化共生推進の取組について

### 【調査目的】

精華町での、やさしい日本語版広報誌の発行や、せいかグローバルネットと共催での日本語学習教室等の実施など、本府の今後の取組の参考とするため、精華町における多文化共生推進の取組について調査する。

### 【調査内容】

精華町は、関西文化学術研究都市の中心都市であり外国人住民も多く生活しており、今後も増加が見込まれることやグローバル化に対応するため、第6次総合計画では施策の柱の一つに国際交流を掲げ、多文化共生社会の実現を目標に様々な取組を進めている。

主な取組として、①窓口での通訳や翻訳などを行う国際交流員の任用、②英語版とやさしい日本語版で発行する広報誌「いちご」や、ホームページの「English ページ」、災害時に役立つ情報を掲載した「多言語版防災マップ」などの外国人住民への情報発信、③精華町を拠点に外国人支援等の活動を行う住民団体「せいかグローバルネット」との共催事業などを実施している。

共催事業は、外国人住民支援としての①生活上の困りごと相談や文化体験等も行う日本語教室、②子育て中の外国人家族と日本人家族の交流や子育てに関する情報交換等を目的とした多文化子育て広場「いちご一会」、住民のグローバル化に向けた③国際交流員との英会話教室、④国際理解講座などのイベントなどを実施している。また、令和4年度は、京都府国際課と共催で学習支援者のための研修会を実施したり、京都府国際センターと共催で外国人住民向け防災学習会を実施した。

今後もグローバルネットと協働しながら、多文化共生社会の推進に、より一層取り組んでいきたいとのことであった。

### 【主な質問事項】

- ・ 英語以外の言語への対応について
- ・ 受講費用について
- ・ 学校教育への対応について
- ・ 学研都市にある翻訳研究も行う機関との連携について など



調査事項を聴取



にほんご学習室を視察

## 2 京都府警察平安騎馬隊(京都市左京区)

### 【調査事項】

京都府警察平安騎馬隊の活動状況について

### 【調査目的】

令和6年2月10日に創設30周年を迎える京都府警察平安騎馬隊の活動状況について調査する。

### 【調査内容】

京都府警察平安騎馬隊は、大正10年に騎馬警察官2名からなる「騎馬巡查」からスタートし、昭和20年代半ばのモータリゼーションによって次第に減少し消滅したが、平成6年2月10日、平安建都1200年記念事業として京都競馬場内の施設を活動拠点に復活した。その後、平成9年10月に京都市左京区宝ヶ池公園憩いの森内に活動拠点を移し、現在に至る。常駐の警察騎馬隊は、京都府警察と警視庁にのみ存在する。

現在の隊員10名のうち、馬に乗る機動要員は8名で、乗馬経験者もいるが、ほとんどは未経験で入隊し、街頭活動ができるようになるまで約1年の訓練を積んでいる。

活動内容としては、葵祭・時代祭での行列時に逃げたり暴れたりした馬を確保する奔馬対策、小学生の登校見守りや下校指導等の学童警戒、パレードへの参加や交通安全教室等でふれあい活動を行う広報・啓発活動、観光地に出動しパトロール活動を行う観光地パトロール、小中学生の授業の一環として馬房の清掃等を行う職場体験活動などを行っている。

運営にかかる主な経費としては、調教師・装蹄師各1名の人件費、飼料代、馬房に敷くウッドチップ等の敷材費、ワクチンや薬にかかる医療費、馬糞の処理代などである。馬は元競走馬のサラブレッドが現在5頭いるが、活動を維持するには6頭必要と考えられ、1頭不足しているだけでなく、20歳の高齢馬がいるため、追加と入替えが必要な状況となっている。また、物価高騰が続いているため、運営経費は非常に厳しい状況の中、敷藁を安価なウッドチップに変更したり、馬糞回収の頻度を極力減らすなどの対応を行っている。今後も経費節減の工夫をしながら、活動を維持していきたいとのことであった。

### 【主な質問事項】

- ・ 飼料の物価高騰対策について など



調査事項を聴取



厩舎を視察